

神戸空港サブターミナル整備基本計画



海に浮かび、 森を感じる。

- 神戸の歴史と伝統、
山・海、豊かな自然との調和
- 神戸らしさ香るおもてなし
- ユーザーフレンドリーで
快適・質の高い旅の始まり



どのような施設となるのか



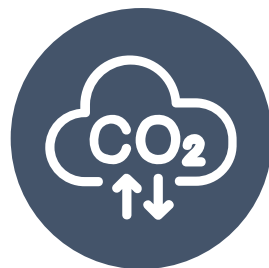
自然・歴史・文化と
調和する施設



おもてなしの心とにぎわいを
大切にする空間



利用者に優しく
ストレスフリーで健康な旅



地域木材の活用
カーボンニュートラルへの対応

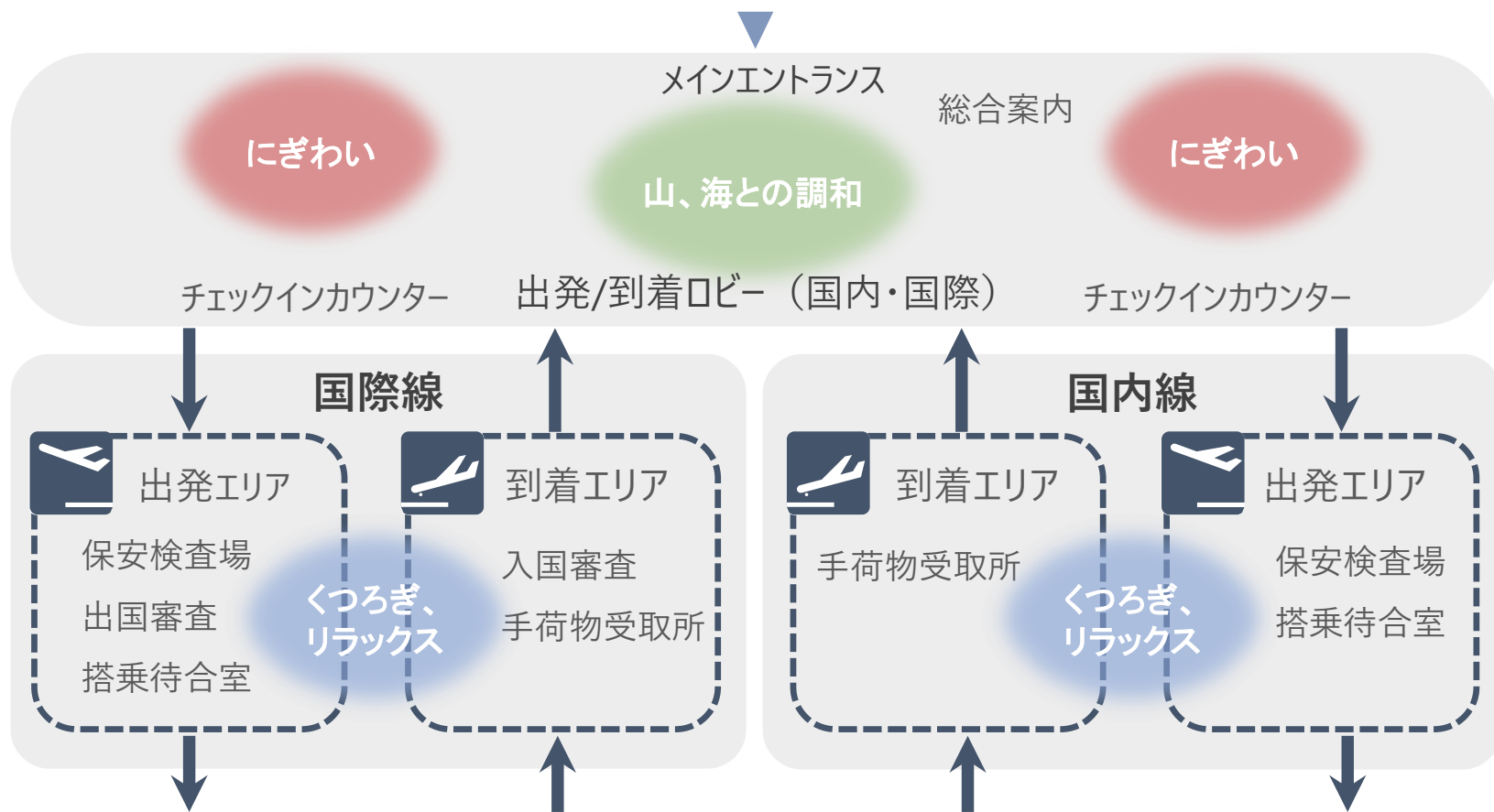


災害対策拠点となる
防災機能の確保

どのような施設となるのか

整備規模 約17,000m²

概算事業費 90億円

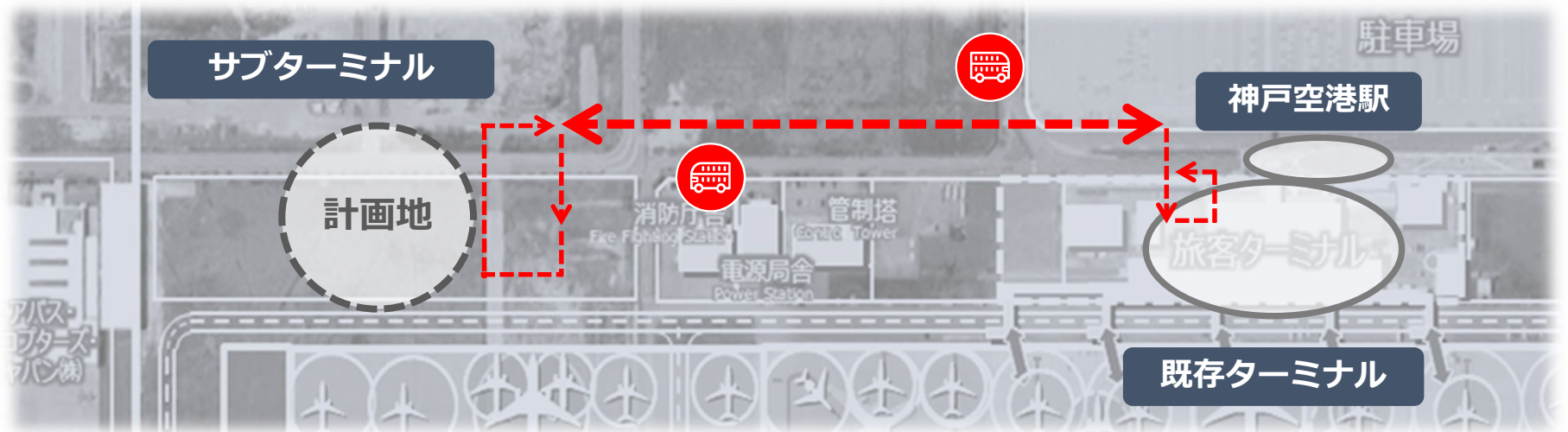


どのような施設となるのか

既存ターミナルとの円滑な移動を提供

新たな駐車場、バスやタクシーが利用しやすい乗降施設の整備

誰もがスムーズに移動できる施設



なぜ、サブターミナルを整備するのか

今後、高まる航空需要の取込 十

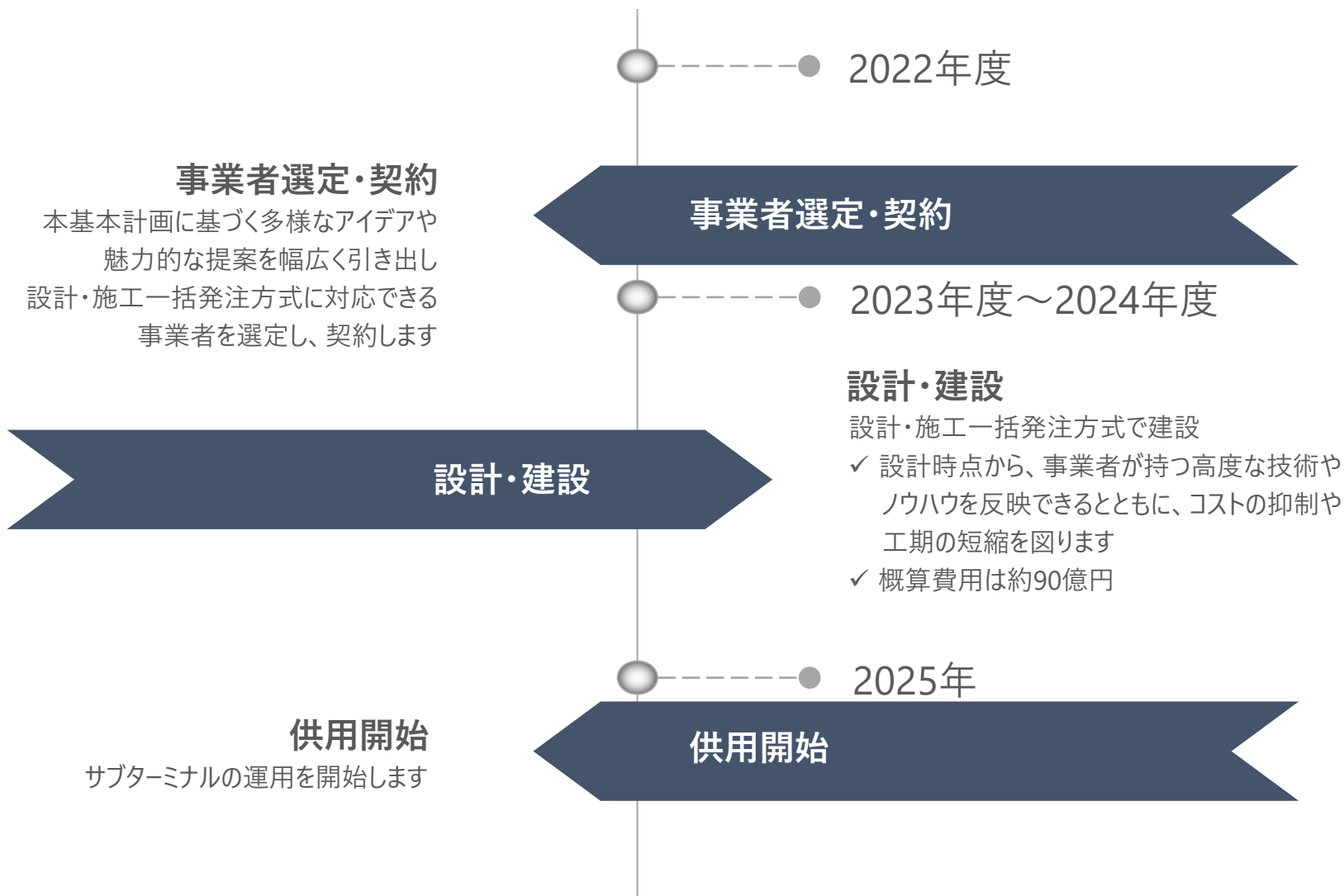
神戸空港は、都市型の海上空港として、2006年2月に開港し、2022年10月には、全国13都市への国内線ネットワークを形成しています。

2025年に開催される大阪・関西万博開催時には、神戸空港の航空需要が拡大します。現行ターミナルは施設規模・内容が今後の航空需要に対応できず、新たにサブターミナルが必要になります。

この拡大する国内線や国際チャーター便需要に対応し、旅客や市民の皆さんに安全かつ快適に神戸空港をご利用いただくため、国内・国際一体型のサブターミナルを整備し、賑わい・利便性の向上を図ります。



どのようにサブターミナル整備を実現するか



(参考) 現在の神戸空港の概要

	概要
設置管理者	神戸市
開港日	2006年2月16日
面積	約156ha
滑走路	1本（長さ2,500m、幅60m）
スポット	10スポット
発着回数	1日最大80回（開港当初60回）
運用時間	7時～23時（16時間）
年間旅客数	約323万人
ターミナルビル	総延床面積：18,600㎡（鉄骨造4階建） ①旅客ターミナルビル 17,100㎡ ②付帯施設（キャノピー） 1,500㎡
駐車場	約2,100台 （第1駐車場 約1,500台、第2駐車場 約600台）
アクセス	神戸三宮から ポートライナー：約18分 バス：約22分



神戸空港の位置



神戸空港（航空写真）

(参考) サブターミナルの施設整備概要

(1) 計画地の概要

所 在：神戸市中央区神戸空港1、8-1、13
の一部

(2) 敷地条件

用途地域：準工業地域

容 積 率：200%

建 蔽 率：60%

高さ制限：航空法による転移表面（法第49条）

防火地域：指定なし

高度地区：指定なし

大規模集客施設制限地区

(3) 建物の規模

構 成：原則、2階建て

建築面積：約17,000m²

(4) 導入機能（基本概要）

○ユニバーサルデザイン

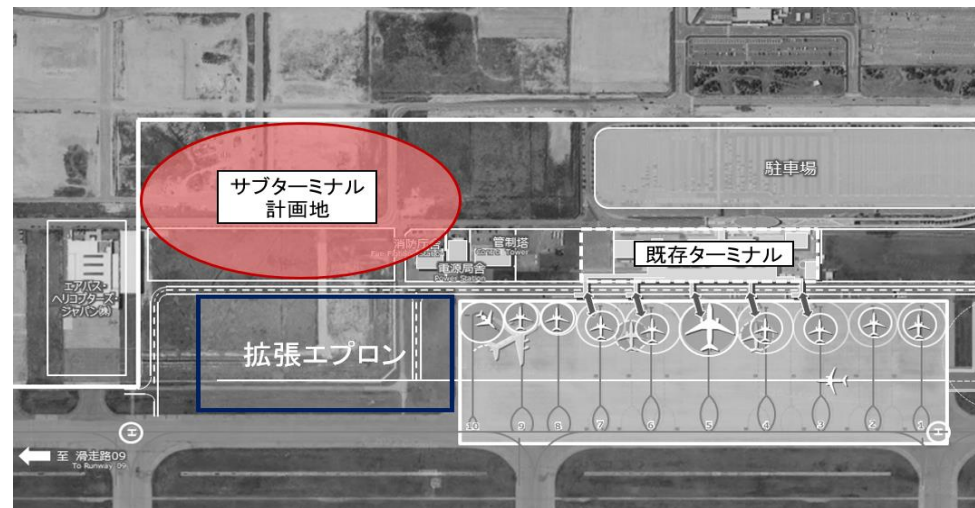
○自然採光など自然エネルギー・
再生可能エネルギーの利用など

○エコマテリアルの活用など

○直下型・海洋型大規模地震への耐震機能

○津波・高潮への浸水対策機能

○大規模災害時の広域防災拠点機能



(参考) サブターミナルの施設整備概要

(5) 導入機能 (建物構成)

①ロビー機能

ロビーでは、搭乗手続きのスムーズ化、送迎者の待機場所の確保、総合案内機能、両替所などのサービス機能を配置するとともに、山・海を望む賑わい施設を想定

②国内線エリア機能

搭乗者のスムーズな保安検査、空の旅の始まりを心地よく過ごせる搭乗待合室、商業施設、手荷物受取所などを想定

③国際線エリア機能

国内線エリアの機能に加えて、スムーズな出国審査、入国審査を行うことができる施設を想定

④その他機能

国際線に必要となる出国・入国審査のためのCIQ事務所、運行する各航空会社の事務所、建物に必要な機械室等を想定

	諸室	面積
ロビー	出発/到着ロビー、送迎者待機場所、総合案内、商業施設、両替所等サービス施設 等	約4,000㎡
国内線エリア	保安検査場、搭乗待合室、手荷物受取所、商業施設 等	約2,500㎡
国際線エリア	保安検査場、出国審査場、搭乗待合室、入国審査場、手荷物受取所、商業施設 等	約3,000㎡
その他	CIQ事務所、航空会社事務所、機械室 等	約7,500㎡
	合計	約17,000㎡